

自分の「得意」「好き」を活かして働く

小橋さんの働く「グループホーム(居住施設)」では、利用者さんの朝起きてから夜寝るまで(寝ている間も)の生活全般を支援しながら、生活トータルのコーディネートと一緒に考えます。日中、利用者さんの不在時には清掃などをしたり、病院の付き添いを行うことも。

一方、竹内さんの働く「通所施設」では、日中活動を中心に支援をしています。グループホームや自宅から通ってきた利用者さんと、「今日は何をしましょう」と話をするところから一日が始まります。清掃等の委託業務など仕事がメインの午前中と、お楽しみ活動がメインの午後に分けて様々な活動をしています。

いわば、グループホームは「家」で、通所施設は「会社や学校」のイメージです。

現在はコロナウイルス感染対策のため、少人数に分かれて日中活動を行っています。この日は、みんなで協力してクリスマスの飾り付けをしていました。「〇〇さん、このリースはここでいいかな?」「〇〇さん、一緒に貼りましょう!」利用者さんと職員がお互いの名前を呼びながら、飾り付けが出来上がっていきます。ゆったりとした時間が流れつつ、時に爆笑が起こったり、みんなが自由に過ごしています。

秋の芋掘りで取っておいた芋の“つる”を使ったリースも、紙の輪っかのできたツリーも、全て職員のアイデアからの手作り。「工作、ピアノ、お好み焼きをつくるのが得意な人。ここではいろんな得意を生かします。」と竹内さん。竹内さん自身は、大きな声を出してみんなに呼びかけることが得意だそうです。「大きな声で楽しそうに話していたら、『なんだらう、楽しそうだから一緒にやってみよう』となりますよね。」



利用者さんと一緒に飾り付けをする職員



「挑戦する気持ちがあればどんな人でも働けます。知識があるに越したことはないけれど、特別なことは不要です」(小橋さん)。研修はOJT中心で、新人職員には一人ずつ指導担当職員がつき、シフトを合わせて勤務をしながら仕事を教えてもらいます。まずは利用者さんの名前と特性を覚えて、その後に対応や介助の方法を覚えていきます。交換ノートを使ってお互いに進捗状況を確認めながらその人に合わせたペースで進めていきます。

「利用者さん以外にも保護者や業者など様々な方に対応する機会があるため、『挨拶』や『礼儀』は身につけていると良いですね」(小橋さん)。「スタンドプレーではなく、チームで連携するのを面白いと感じる方が向いていると思います。」

当たり前の“幸せの瞬間”を感じる

この仕事の「魅力」はなんでしょうか?「利用者さんから、感謝の言葉・笑顔・反応をもらえて、あったかい気持ちを感じられます」(小橋さん)。「例えば、みんなで散歩をしている時、利用者さんから『天気がいいね』と言われ、その一言で当たり前の“幸せの瞬間”を再認識しました。小さな幸せを重ねて感じられる仕事です。」(竹内さん)

時に利用者さんとぶつかったり、うまくいかないこともあります。そんな時は利用者さんや他の職員と話をしたり、言葉だけでなく積極的にコミュニケーションをとっていきそうです。小橋さんは「いつも笑顔でいること」を心がけています。「自分が笑顔でいると、相手も笑顔になる」ことを仕事を通して実感してきました。竹内さんも「声を出してほしい」ということを、職員みんなにずっと伝えているそうです。「どんな小さなことでも分からないことは何回でも聞いてほしいし、何回でも伝える」(竹内さん)。職員同士でも相手のことを大切に、相手の立場に立って、チームで働くことを大切にしています。



完成した飾り付けの前でみんなで記念撮影!

一生モノの仕事になるかも

「介護や障害者支援の仕事は、まだまだネガティブなイメージをもつ方もいるかもしれません。『ちょっと一度やってみようかな』くらいの気持ちで体験しに来て下さい。やってみないと向き不向きも分からないですよ。もしかしたら、ここが一生モノの仕事になるかもしれません」(小橋さん)。「一億総活躍社会に向けて、国全体で障害者支援のような福祉の仕事をサポートしていく流れもあります。今後も無くなることのない仕事です」(竹内さん)。

最後にお二人から「ぜひならやま会に来て下さい!」と、大きな声で、強く温かい歓迎のメッセージをいただきました。

社会福祉法人 ならやま会

事業内容:

児童発達支援センターの子どもから
特別養護老人ホームの高齢者の方々まで、
様々な年代の方に福祉サービスを提供。

本社所在地: 奈良市奈良阪町2532-3

ホームページ: <https://www.narayamakai.jp>



ならやま会では現在、生活支援員や介護職員など、一緒に働く職員を募集しています。詳しくはハローワーク窓口までお問い合わせください。